



防災術 お届け便

HIROYUKI KURAMOTO



1972年、3月生まれ
2014年4月、白糠郵便局長として着任。
2017年1月に防災士に認定。妻と娘との3人暮らし。趣味は読書。好きな食べ物
は「柳だこの珍味」と日本酒

No.7

自宅の防災対策は？

どで販売されている家具の転倒防止グッズで対策しましょう。

○靴は寝床のそばに

地震発生時は転倒した家具や割れたガラスが室内に散乱し、普段と同じように避難口まで向かうことができませぬ。揺れにより玄関ドアが開かなくなることもあり、窓から脱出避難する場合もあります。

屋内も屋外もケガをせずに歩けるよう運動靴を身近に置いて、靴を履いて避難できるようにしましょう。

○非常持出袋はどこに置く？

せっかく準備していた非常持出袋が、実際の震災避難時に持ち出しできなかつた事例があります。地震による家具の転倒で、持ち出しができなかつたことが主な理由です。靴と同じく寝床のそばに置いたり、車や物置などに予備を置くことも検討しましょう。

○自宅避難に備えて

地震や津波で自宅に被害が少なく、倒壊などの危険性が無い場合は、ほ

とんどの方は自宅に帰られます。ですが状況によってライフラインである電気・水道などがストップしていると、復旧までに多くの時間を要する場合があります。非常持出袋のほかに自宅に水や食料、電池などを備蓄しておくといいでしょう。最低でも3日分、できれば1週間分が用意できると良いです。

ちなみに水は飲料用と調理用などを含めると1日につき一人当たり3リットル程度が必要と言われており、1週間分となると結構な量となります。1か所への保管は難しいので、分散して保管することがリスク軽減につながります。



日常備蓄



大切なもの



非常用持出袋



家具の転倒防止



履きやすい運動靴

今回は、自宅での防災について考えてみましょう！

○ストーブは大丈夫？

そろそろ雪がちらつく季節となりました。今年も例年よりも暖冬の可能性が高そうです。暖冬とはいえ、北海道では暖房器具を使いますよね。オール電化の住宅もありますが、石油ストーブを主な暖房としているお宅も多いはず。まずは暖房器具についてです。

地震のときは、ストーブが転倒し、周りのものに火が点いて火災になる場合があります。「対震自動消火装置」はありますが、ストーブの余熱で燃え移る可能性があります。日頃

から燃えやすいものをストーブの上につるしたり、周りに燃えやすい物を置いたりしないようにしましょう。また、停電復旧後にストーブが点いて火災が発生する可能性もありますので、電気ストーブの場合はコンセントを抜くか、ブレーカーを落とすようにしましょう。

○タンス等家具の転倒防止

阪神・淡路大震災の発生は早朝でした。多くの方がまだ寝室にいた時間だったため、家具の転倒によりケガや圧死された方もいました。

家具の転倒により避難に時間がかかり、その間に津波が来てしまう可能性もあります。ホームセンターな